



水上 神沢さんの代表作「くまの子ウーフ」についておうかがいしたいと思います。特に「ウーフはおしっこでできるか?」の一編が当時、大変な話題になりました。

神沢 それまでは「ちびっこカムのぼうけん」のようなものを書いていました。冒険物語というものは、筋立てがはっきりしていて、面白い。人をぐっと惹きつけます。つまり、「物語」なんです。

物語の組み立て方——始まりがあつて、高まりがあつて、終わる——それを勉強しようとしていました。日本人は構力が弱い、と文学の世界では言われていて、もっぱらそのことを頭に置いて書いてました。

それから十年経ち「さて、今度は違ったものを書きたい」と思ったんです。筋立ての面白さではなく、物事をもっと端的に、本質的にとらえた、詩のようなおはなしが書けないだろうか、と試みたのが「くまの子ウーフ」でした。「ウーフはおしっこでできるか?」もそのようなもの一つです。

「自分は何者であろうか」という問いは常にありました。小さいときから自分はずいぶん鳥でもなく、人間の女の子に生まれたのだろうか、ということが不思議でしたね、思い返しながらです。

だいたい私は結核でしたし、童話を書くときに子どもを観察する、ということが全くありませんでした。何をよりどころにするかと言えば、自分が子どものときにどう感じたか、ということ。自分の中に深く潜って行って、子ども時代を思い返すんです。

私はサハリンの原野に育ちましたから、その美しさが表

れる。すると、病気で伏せられている自分が自由に駆け出すんです。そのようにして、書くことで自分もまた元気になったと思っています。

北九州芸術劇場小劇場  
参加者 約一五四人

手芸教室

「ウーフを作ってみよう」  
8月23日(土)・24日(日)全2回

ここ一番の人気イベントになりました。当初募集の一五組では追いつかず、急きよ教室枠を広げ、二日間の開催に。講師は北九州おもちゃライブラリー副館長の加藤久美子さん。みんな、ウーフと二緒のすてきな思い出ができました。

参加者 五四組



加藤久美子さん (中央)

ブックトーク+クイズラリー  
7月26日(土)・8月9日(土)  
8月23日(土)・9月13日(土)  
全4回

グループ「すぎのこ」、「児童文学を読む会」の方々にご協力いただき、ブックトークを行いました。こどもたちへ読書の楽しさを伝えるブックトーク。今回は神沢作品の魅力、クイズや紙芝居などまじえ紹介しました。

参加者 各回 約三〇人



16mmフィルム  
「ちびっこカムのぼうけん」  
映画会  
8月3日(日)・31日(日)全2回

日本初の長編人形劇アニメーション「ちびっこカムのぼうけん」(原作・神沢利子 監督・河野秋和 一九七六年) 映画会を行いました。北の国を舞台にした壮大な物語で、かわいらしい動物たちが大活躍。とても楽しい作品でした。

参加者 各回約四五人

▲佐木館長と学ぼう!  
こどもペンクラブ  
7月27日(日)・7月30日(水)  
8月10日(日) 全3回

昨年に引き続き、佐木隆三館長によるこどもたちへの文章教室を開催しました。本年は全3日のカリキュラムを組み、ルポルタージュの執筆に挑戦。北九州市消防局指令センターへ取材を行いました。

教室内での意見交換はもちろん、取材先では時間が足りないほど活発な質問を行い、懸命にメモを取っていました。

取材後すぐに、原稿用紙へすら鉛筆を走らせる、小さなライターたちに佐木館長も舌を巻きました。

参加者 一九人

